

令和 7 年度 2 学年

== 選択科目 ==

教科	理科	科目	化学	単位数	4 (2,3年各2)	学年	2, 3	学科	品質管理流通科
使用教科書	化学(実教出版)			副教材	なし			対応資格	なし

1 目標

化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1章 物質の状態と平衡 1 状態変化 2 固体の構造 3 気体の性質 4 溶液	物質の状態と平衡についての知識を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能が身に付いている。	物質の状態と平衡について、観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現することができる。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
2章 物質の変化と平衡 1 化学反応と熱・光エネルギー 2 電池と電気分解 3 反応の速さとしくみ 4 化学平衡	化学反応とエネルギー、化学反応と化学平衡についての知識を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能が身に付いている。	物質の変化と平衡について、観察、実験を通して探究し、化学反応とエネルギー、化学反応と化学平衡における規則性や関係性を見いだして表現することができる。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
3章 無機物質 1 周期表 2 非金属元素 3 金属元素	無機物質の性質についての知識を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能が身に付いている。	無機物質について、観察、実験を通して探究し、典型元素、遷移元素の性質における規則性や関係性を見いだして表現することができる。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

4章 有機化合物 1 有機化合物の特徴と分類 2 脂肪族炭化水素 3 酸素を含む脂肪族化合物 4 芳香族化合物 5章 高分子化合物 1 高分子化合物 2 天然高分子化合物 3 合成高分子化合物	有機化合物、高分子化合物の性質についての知識を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能が身に付いている。	有機化合物、高分子化合物について、観察・実験などを通して探究し、有機化合物、高分子化合物物質の性質における規則性や関係性を見いだして表現することができる。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
終章 化学が築く未来	化学が果たす役割を日常生活や社会と関連付けながら、その知識を理解している。	人間生活の中の化学について、これからの社会における化学が果たす役割を科学的に考察し、表現することができる。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについてABCする。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括をABCで行う。(仮評価)また、2、3学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
観察・実験	○		
小テスト	○		
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

授業は必ずノート等に授業内容を記入し、提出物は期限を守ってください。教科担任の指示にしたがい、しっかり学習すること。忘れ物も無いように注意すること。

教科	水産	科目	管理実務	単位数	2	学年	2	学科	品質管理流通科
使用教科書		副教材	要点と演習 ビジネス能力検定3級					対応資格	ビジネス能力検定

1 目標

水産食品産業の実務に必要な知識と技術を習得させ、実務の基本姿勢を理解させるとともに水産食品産業の各分野で応用できる能力と態度を育てる。

(1)知識及び技能	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
ビジネスマナーとコミュニケーションの基本について体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付ける。	ビジネスマナーとコミュニケーションの基本に関する課題を発見し、食品関連産業に携わるものとして合理的かつ創造的に解決する力を養う。	ビジネスマナーとコミュニケーションの基本について特質を理解し、関連産業の各分野で利用できるよう自ら学び、水産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ビジネスマナーとコミュニケーションの基本について体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付けている。	ビジネスマナーとコミュニケーションの基本に関する課題を発見し、食品関連産業に携わるものとして合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	ビジネスマナーとコミュニケーションの基本について特質を理解し、関連産業の各分野で利用できるよう自ら学び、水産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 〔指導項目〕ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1編 ビジネスマナーとコミュニケーションの基本 1 キャリアと仕事へのアプローチ 2 会社活動の基本 3 コミュニケーションとビジネスマナーの基本 4 指示の受け方と報告、連絡・相談 5 話し方と聞き方のポイント 6 電話応答 7 来客応対と訪問の基本マナー 8 冠婚葬祭のマナー	ビジネスマナーとコミュニケーションの基本を理解している。	ビジネスマナーとコミュニケーションの基本に係る課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	ビジネスマナーとコミュニケーションの基本について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

第2編 仕事実践とビジネスツール 1 仕事への取り組み、仕事の進め方 2 ビジネス文書の基本 3 統計データの作り方、読み方 4 情報収集とメディアの活用 5 会社数字の読み方	仕事実践とビジネスツールについて、その特徴などを理解している。	仕事実践とビジネスツールの特徴を踏まえて、課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	仕事実践とビジネスツールについて、自ら学び様々な課題解決に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
全商ビジネス計算実務検定 1 見取算 2 乗算 3 除算	ビジネス計算実務検定を取得する上で必要となる計算方法について理解している。	ビジネス計算実務検定を取得する上で必要となる計算方法を解決しようとしている。	ビジネス計算実務検定を取得する上で必要となる計算方法を自ら学び様々な課題解決に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は単元ごとに設定）

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括を ABCで行う。（仮評価）また、2、3学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末（年度末）には、累計した観点別の総括（評価）を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
観察・実験	○		○
小テスト	○		
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
作品制作		○	
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

1年次は教室での座学が中心となるが、学年が上がるごとに実験・実習が重みを増すことから、学習内容の着実な定着が望まれるので、しっかりと意欲的に参加し、教科書・ノート等の忘れ物の無いよう注意すること。

令和 7 年度 2 学年

総合的な探究の時間

教科	総合的な探究の時間	科目	インターンシップ	単位数	1	学年	2	学科	全学科
使用教科書	なし	副教材	なし	対応資格	なし				

1 目標

自己の課題に向けた取組が自己の変容につながることを理解し、身に付いた力を論理的に発表するとともに、自他のよさを認め多様な意見を受け入れようとしている。

2 目的

- ① 勤労観・職業観の育成と職業適性や将来設計について考える機会とし、職業選択能力を養う。
- ② 企業等の現場において実的な知識や技術・技能に触れ、学校における学習への理解の深化、意欲の喚起を図る。
- ③ 生徒が教職員や保護者以外の大人と接する機会を通して、異世代とのコミュニケーション能力の向上を図る。
- ④ 就業体験を通して、地域企業との相互理解を深め、地域社会に貢献できる人材を育成する。(体験することにより、将来の職業選択に役立てる。)

3 評価規準

- A：自己の課題を明らかにし、体験によって身に付いた力を分かりやすく表現できており、他の意見を受け入れている。
- B：自己の発見した課題を体験へ生かすことができ、身に付いた力を表現できた。
- C：地域における活動を体験することができ、自己の課題を発見しようとしていた。

4 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地域の課題の背景にある問題状況、課題の解決に向けた取組等に気付き、そのことが自分自身の生活とつながっていることを理解している。 ②目的に応じて、複数の手段を使って、情報の収集をしている。 ③地域の課題との関係で自らの将来を考えてきたことやそのことによる自己変容が、これまでに行ってきた探究の積み重ねによるものであると理解している。	①地域の複雑な問題状況を把握し、自分の進路や興味・関心と結び付けながら自己の課題を明らかにしている。 ②収集した情報を比較・分析等する中で、地域の問題に関する共通点や差異点を明確にしている。 ③自らの主張や提案の意図が伝わるように、論理的な章立てで論文を構成している。	①研究テーマの解決に向けて、自分で計画を立て、自分から情報収集に向かおうとしている。 ②自他のよさを認め、多様な意見を受け入れながら、地域に貢献しようとしている。

5 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
オリエンテーション 事業所希望調査 事前訪問準備 実習前発表会	インターンシップの準備をするにあたり、自己の課題に向けた取組が自己の変容につながることを理解している。	インターンシップの準備をするにあたり、自己の発見した課題を体験へ生かすことができ、身に付いた力を表現している。	インターンシップの準備をするにあたり、地域おける活動を体験することができ、自己の課題を発見しようとしている。
インターンシップ本番	インターンシップをとおして、自己の課題に向けた取組が自己の変容につながることを理解している。	インターンシップをとおして、自己の発見した課題を体験へ生かすことができ、身に付いた力を表現している。	インターンシップをとおして、地域おける活動を体験することができ、自己の課題を発見しようとしている。
レポート作成 礼状作成 インターンシップ報告会	インターンシップの報告をとおして、自己の課題に向けた取組が自己の変容につながることを理解している。	インターンシップの報告をとおして、自己の発見した課題を体験へ生かすことができ、身に付いた力を表現している。	インターンシップの報告をとおして、地域おける活動を体験することができ、自己の課題を発見しようとしている。

6 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は単元ごとに設定）

この結果を数値化することで、観点別の総括を ABC で行う。

A：自己の課題を明らかにし、体験によって身に付いた力を分かりやすく表現できており、他の意見を受け入れている。

B：自己の発見した課題を体験へ生かすことができ、身に付いた力を表現できた。

C：地域おける活動を体験することができ、自己の課題を発見しようとしていた。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
オリエンテーション		○	○
実習前発表会			○
インターンシップ	○	○	○
実習後発表会		○	
レポート	○	○	
探究シート		○	
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

7 担当教員から

探究シートが重要になります。インターンシップ前後で自分が何を課題にし、その課題にどのように取り組んだのか、どのような力が身に付いたと実感できたのかを実感できること。記録をしっかりと残すこと。